



4:14 それにしても、あなたがたは、よく私と苦難を分け合ってくれました。

4:15 ピリピの人たち。あなたがたも知っているとおりに、福音を伝え始めたころ、私がマケドニアを出たときに、物をやり取りして私の働きに関わってくれた教会はあなたがただけで、ほかにはありませんでした。

4:16 テサロニケにいたときでさえ、あなたがたは私の必要のために、一度ならず二度までも物を送ってくれました。

4:17 私は贈り物を求めているのではありません。私が求めているのは、あなたがたの霊的な口座に加えられていく実なのです。

4:18 私はすべての物を受けて、満ちあふれています。エパフロディトからあなたがたの贈り物を受け取って、満ち足りています。それは芳ばしい香りであって、神が喜んで受けてくださるささげ物です。

4:19 また、私の神は、キリスト・イエスの栄光のうちにあるご自分の豊かさにしたがって、あなたがたの必要をすべて満たしてくださいませ。

4:20 私たちの父である神に、栄光が世々限りなくありますように。アーメン。

4:21 キリスト・イエスにある聖徒の一人ひとりに、よろしく伝えてください。私と一緒にいる兄弟たちが、あなたがたによろしくと言っています。

4:22 すべての聖徒たち、特にカエサルの家に属する人たちが、よろしくと言っています。

4:23 主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊とともにありますように。

めに大いにささげ、経済的にも力になりました。献金は神さまにささげるものですが、実際的には働き人の生活を支えて働きを続けられるようにし、または旅費など経費に充てられて、働きが実現できるように役立ちます。

福音の宣教や人の救いというのは、モノを生み出すものではありませんから、仕入れや設備投資など物品を得ることはありません。また利益を求めのわけではありませんから、利潤を生み出すのでもありません。企業の論理から言ったら、お金によってお金を産み出すことのない、有り得ない世界です。

しかしそのような働きにこそ、主の大いなるみわざがあります。永遠のいのちのためであるならどんなに献げても惜しくないと思える信仰によって、多くの働きと働き人が支えられ、福音が宣べ伝えられ、人々は救われてゆくのです。

そして献げた人には、主が報いて余りある祝福で満たしてくださいませ。それが献金です。ですからパウロは「霊的祝福」と言っているのです。主に期待して献げ、主のみわざを体験しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

